



# 恐竜野外博物館

ヘンリー・ジー著 ルイス・レイ画

小畠郁生 監訳 池田比佐子 訳

A4 変型判 144 頁 定価 3990 円(本体 3800 円)

ISBN 978-4-254-16252-3 C3044

現生の動物のように、生き生きとした形で復元された、ヴァーチャル観察ガイドブック。ルイス・レイのすばらしいイラストが楽しめる。  
(内容)三疊紀(コエロフィシスほか)／ジュラ紀(マメンチサウルスほか)／白亜紀前・中期(ミクロラプトルほか)／白亜紀後期(トリケラトプス、ヴェロキラプトルほか)

# 恐竜イラスト百科事典

ドゥーガル・ディクソン著

小畠郁生 監訳 池田比佐子 舟木嘉浩 舟木秋子 加藤 珪 訳

A5 判 260 頁 定価 9975 円(本体 9500 円)

ISBN 978-4-254-16260-8 C3544

子どもから大人まで楽しめる最新恐竜図鑑。フクイラプトルなど世界各地から発見された中生代の生物355種を掲載。  
(内容)恐竜の時代(地質年代、系統と分類、生息地、絶滅、化石発掘)／世界の恐竜(コエロフィシス、プラテオサウルス、ウタツサウルス、ディロフォサウルス、メガロサウルス、ステゴサウルス、リオプレウロドン、ラムフォリンクス、ディロング、リアレナサウラ、ギガノトサウルス、パラサウロロフス、パラリティタン、トリケラトプス、アンキロサウルスほか)

## 読者対象

●恐竜ファン ●古生物に関心のある方 ●学校図書館、公共図書館 (2010年2月刊)

きりとり線

【お申し込み書】この申込書にご記入のうえ最寄りの書店にご注文ください

## ホルツ博士の最新恐竜事典

B5 判 472 頁 定価 12600 円(本体 12000 円)  
ISBN 978-4-254-16263-9 C3544

●お名前

公費 / 私費

●ご住所(〒

)TEL

冊

取扱書店

朝倉書店

〒162-8707 東京都新宿区新小川町6-29／振替00160-9-8673  
電話03-3260-7631/FAX03-3260-0180  
<http://www.asakura.co.jp> [eigo@asakura.co.jp](mailto:eigo@asakura.co.jp)

# ホルツ博士の最新恐竜事典

## DINOSAURS

The Most Complete, Up-to-Date Encyclopedia for Dinosaur Lovers of All Ages



最新の系統学に基づいた  
恐竜の姿がよみがえる

トマス・ホルツ著 ルイス・レイ画  
小畠郁生 監訳

B5 判 472 頁 定価 12600 円(本体 12000 円)  
ISBN 978-4-254-16263-9 C3544

朝倉書店

1 恐竜発見の歴史

●恐竜学最前線(マシュー・C・ラマンナ)

2 岩石と環境

3 化石と化石化作用

●恐竜の糞を相手に奮闘(カレン・チン)

4 地質学的時間—恐竜化石の古さとその調べ方

●どのくらいの古さ?—地球上の生物の進化(レイモンド・R・ロジャーズ)

5 発掘現場から博物館へ—化石発見

●恐竜を組み立てる(ジェイソン・「チューイ」・ブルー)

6 恐竜を生き返らせる—恐竜アート

7 分類学—恐竜の名前はなぜ奇妙なのか?

●恐竜の名前の研究(ベン・クライスラー)

8 進化—変化をともなう系統

9 分岐論—恐竜の系統樹を作成

10 脊椎動物の進化

11 恐竜の起源

12 竜盤類—トカゲのような骨盤をもつ恐竜

13 コエロフィシス類とケラトサウルス類—原始的な肉食恐竜

●小さな獣脚類、大きな発見(ロン・ティコスキ)●ケラトサウルス類の多様性(フェルナンド・E・ノバス)

14 スピノサウルス上科の恐竜—メガロサウルス類と背中にひれのある魚食恐竜

●魚を食べる巨大恐竜—スピノサウルス類(アンジェラ・C・ミルナー)

15 カルノサウルス類—巨大な肉食恐竜

●群れで狩りをする巨大恐竜(フィリップ・J・カリー)●アロサウルスの採食習慣(エミリー・レイフィールド)

16 原始的なコエルロサウルス類—羽毛をもった最初の恐竜

17 ティラノサウルス上科の恐竜—暴君恐竜

●ティラノサウルスの若もの—暴君トカゲとともに成長する(トーマス・D・カー)

●骨に応える—再び骨をかんだティラノサウルス・レックス(グレゴリー・M・エリクソン)

18 オルニトミモサウルス類とアルバレスサウルス類—ダチョウ恐竜と親指にかぎ爪をもつ恐竜

●大きな鳥もどき—オルニトミモサウルス類(小林快次)

19 オヴィラプトロサウルス類とテリジノサウルス上科の恐竜—卵どうぼうとナマケモノ恐竜

20 ディノニコサウルス類—ラブトル恐竜

21 鳥群

●最初期の鳥類(ルイス・キッペ)●鳥類の飛行の起源(ケヴィン・バディアン)

22 古竜脚類—原始的な首の長い植物食恐竜

23 原始的な竜脚類—初期の巨大な首長恐竜

●最大の恐竜の生存—竜脚類の適応(ポール・アチャーチ)

24 ティプロドクス上科の恐竜—むちのよう尾をもつ巨大な首長恐竜

●竜脚類の進化(ジェフリー・A・ウィルソン)

25 マクロナリア類—大きな鼻、長い首をもつ巨大な恐竜

26 鳥盤類—鳥類のような骨盤をもつ恐竜

27 原始的な装盾類—装甲をもつ初期の恐竜

28 剣竜類—骨板をもつ恐竜

29 よろい竜類—戦車のような恐竜

30 原始的な鳥脚類—くちばしがある原始的な恐竜

●たくましい小型恐竜(パトリシア・ヴィッカース-リッチ、トーマス・H・リッチ)

31 イグアノドン類—くちばしがある進化した恐竜

32 ハドロサウルス類—カモノハシ竜

●ハドロサウルス類(マイケル・K・プレット-サーマン)

33 厚頭竜類—ドーム状の頭部をもつ恐竜

●石頭恐竜—厚頭竜類(ラルフ・E・チャップマン)

34 原始的な角竜類—オウムのようフリルがある恐竜

●争っている姿で—モンゴルで発見された「闘争化石」(マーク・A・ノレル)

35 ケラトプス類—角がある恐竜

●恐竜の雌雄—見分けられるか?(スコット・D・サンブソン)

36 恐竜の卵と赤ん坊

●恐竜の成長速度(ジョン・R・「ジャック」・ホーネー)

●恐竜の成長—アバトサウルスの例(クリスティーナ・カリー・ロジャーズ)

37 恐竜の行動—恐竜の行動はどうすればわかる?

●歩き、走る恐竜(マシュー・T・カラノ)

●T・レックスについていく—どのくらいの速さで走れたのか(ジョン・R・ハッテンソン)

38 恐竜の体の動き—生きている恐竜

●恐竜の体を内側から探る—骨からわかる(アヌスヤ・チンサミー=チュラン)

●恐竜は混血か冷血か(ピーター・ドッドソン)●恐竜の古病理学(エリザベス・リーガ)

39 三疊紀の生物

40 ジュラ紀の生物

●ジュラ紀の刑事(ロバート・T・バッカー)

41 白亜紀の生物

●南アメリカの恐竜(ロドルフォ・コリア)●ヨーロッパの恐竜(ダレン・ナッシュ)

42 絶滅—恐竜の世界の終わり

●ジュラシックパークは実現するか?(メアリー・ヒグビー・シュヴァイツァー)

# ホルツ博士の最新恐竜事典

Thomas R. Holtz, Jr.: Dinosaurs. The most complete, up to date encyclopedia for dinosaur lovers of all ages(Random House Children's Books, 2007)

小畠郁生 監訳 池田比佐子・加藤珪・舟木嘉浩・舟木秋子 訳

■恐竜学の基礎知識、系統別の恐竜の説明、恐竜の生きていた中生代の歴史などで構成され、恐竜について知りたいことのすべてがわかる百科事典

■著者のホルツは獣脚類の系統などの業績で有名な若手研究者

■一流の恐竜画家ルイス・レイによる復元イラスト

■専門的なトピックについては33人の古生物学者によるコラムを掲載(北海道大学総合博物館の小林快次准教授も執筆)

■約80ページにわたる最新の恐竜リスト

■恐竜学の基本的な用語解説

■恐竜名のカタカナ表記と正式なアルファベット表記、その他の用語からもひける索引

## 本文組見本

(70%縮小)

### 72 竜盤類

はすべてヘレラサウルス科 Herrerasauridae というグループにまとめられている。

エオラブトルとヘレラサウルス、およびそれと似たその他数種の恐竜はギザギザのついたナイフのような肉食恐竜の歯をもち、そのためこれらは初期のタイプの獣脚類と考えられることが多い。しかし、恐竜と近縁の他の動物たち(ラウイスクス類やその他の原始的なワニの仲間など)もギザギザのついたナイフのような歯をもっており、したがってわれわれは最も初期の恐竜たちも同様の歯をもっていたと予想している。鳥盤類や竜脚類の木の葉型の歯は、植物を食べるのを助けるため、この2つのグループでそれぞれ別個に進化してきた特殊化した特徴だと考えられる。つまりナイフのような歯から、それをもつ恐竜が獣脚類と考えることはできない。その恐竜が肉食だと考える根拠になるだけである。

これら問題の竜盤類は、明確な獣脚類にみられるいくつかの特徴も欠落している。たとえば、獣脚類の足の第1指(人間の足の親指に当たる)は短く、ふつうその恐竜が歩くときに地面上には触れない。また中足骨(足の長い骨)は足首にまで届いていない。エオラブトルやヘレラサウルス類は獣脚類以外の恐竜に似ていて、足の第1指は地面に触れるくらい長く、中足骨は足首にまで達する。



三疊紀後期の捕食性竜盤類恐竜、アルゼンチンのヘレラサウルス

またエオラブトルやヘレラサウルス類には、竜脚形類や獣脚類にみられる長い首(肩の近くの椎骨が長い)、大きな親指、長い第2指などがみられない。しかし、中空の椎骨はもっている! このことから、これらの恐竜は竜脚形類と獣脚類が分岐する以前に、竜盤類の系統樹から枝分かれしたと考える古生物学者もいる。

他方、ヘレラサウルス類やエオラブトルのかぎ爪

や手指の骨のいくつかは、竜脚形類よりも真的獣脚類に形が似ている。また、これらの恐竜の椎骨の内側にある空洞の形は、真的獣脚類の椎骨内部にある空洞に似ている。そのためエオラブトルやヘレラサウルス類はごく原始的な初期の獣脚類だと考える学者もいる。筆者個人としては、まだ結論は出ていないと考えており、新しい標本によってやがていずれかの形で結論が得られるだろう。

これらの恐竜が獣脚類か、それともただの原始的な竜盤類かはさておき、エオラブトルもヘレラサウルス類も、竜脚形類以外のその他のあらゆる恐竜も、獣脚類以外の竜盤類はどれもジュラ紀まで生きのびることはなかった。しかしこの第13章で述べるように、竜脚形類と獣脚類はジュラ紀と白亜紀にも繁栄を続けた。



白亜紀前期のティラノサウルス上科恐竜、中国のディロング

したら、それは、あらゆる原始的なコエルロサウルス類と同じように長い腕と三本指の細い手をもつ小型の恐竜だろう。また、他のあらゆる原始的なコエルロサウルス類と同じように、それは原羽毛でおわれているだろうというものだった。あとは誰かがこのような恐竜を見つけることができさえすればよいだけだった。

### 綿毛をもった暴君: ます予測、後で発見

結局のところ、ある人がそのような恐竜を見つかった! ディロング *Dilong* が発見され、2004年に記載されて、われわれの予測は実現となった。ディロ